

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395600055		
法人名	社会福祉法人 博寿会		
事業所名	グループホーム とびしま		
所在地	愛知県海部郡飛島村大字服岡4丁目4-1		
自己評価作成日	平成28年11月5日	評価結果市町村受理日	平成29年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2395600055-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成28年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は地域との交流をより深めていきたいということで村の職員さんの協力のもと、ゆったり(認知症)カフェの開催につながりました。まだ始まったばかりですが、地域のお役に立てるようにがんばってまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲を田畑に囲まれた広い敷地内に平屋でゆったりと建てられた事業所は、飛島村初のグループホームとして誕生し、今年で開所2年目を迎えた。今年、事業所の交流スペースで認知症カフェ「ゆったりカフェ」を開催し地域交流を深める努力をしたり、広報誌にチラシを入れたりして事業所の広報活動にも力を注いでいる。隣接する経営母体を同じくする介護老人施設と合同で避難訓練を実施したり、音楽療法や歌謡ショーなど行事を共にし、楽しむ機会もある。また、法人の施設で開催される夏祭りに参加、地域の方や保育園児などの交流を図っている。「笑顔と思いやりのある心」を理念とし、その人ができることを自信をもって生活に活かして過ごせるように、職員間で話し合いケアにつなげるように心がけている。事業所内部は白い壁と木目調の建具が調和し、「大人の生活環境」をイメージして作られている。広い敷地には、日当たりのよい菜園があり、畑作業のボランティアと共に、野菜の栽培や園芸をして自然に触れる機会を楽しんでいる。柔らかな日差しが降り注ぎ、菜園やベランダが一望できる広い居間では、職員の丁寧な支援に支えられ洗濯物をたたんだり、テレビを見たり会話などをしてゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔と思いやりの心」をグループホームの理念としてスタッフで共有し、日々の業務にあたっています。	理念は、管理と職員で意見を出し合い作成し、事務室に掲示している。月に1度の会議で理念について話し合い、理念に沿った具体的なケアが実践できるように取り組んでいる。また、職員相互に気付き促しをしながら理念を振り返り、共有を深めケアに活かすように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	飛島村の作品展等に参加したり、28年11月11日に初めて開催するゆったりカフェ(認知症カフェ)も地域とのつながりに発展していくと思います。	町内会に加入はしていないが、管理者が地域住民であり、地域の催し物や行事についての情報を把握している。今年度は認知症カフェを開催したり、飛島村の作品展へ作品を出展している。法人の施設で開催される夏祭りに参加し、保育園児との交流もしている。地域の畑ボランティアが菜園の畝起こしや手入れに訪れ、入居者と一緒に収穫を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	先に述べたゆったりカフェが地域の人達、また認知症の要介護者ご本人様とご家族様のすこしでも支えになることができるようにしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催し、ご家族様、村の職員様等から運営の報告に対するアドバイスをいただき、毎回ホームのサービス向上に活かしています。	入居者、家族代表者、民生委員、保健師、地域包括職員、飛島村職員の参加を得て年6回開催している。運営や行事報告を行い、参加者からの提案やアドバイスを受けてサービス向上に繋げている。	運営推進会議の案内は、家族代表のみだけではなく全家族に送付したり、会議に参加できなかった方に会議録などを配布し会議内容を知らせるようにしたり、日程調整などをしてより多くの家族が参加できるような取り組みを期待したい。また、ホームだよりなどを活用し広報への工夫も望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ご利用者様の移動、事故の報告、疑問点等はずぐに連絡をとり、報告やアドバイスを受けようとしています。	開設2年目なので、役場との連携や情報交換などを密に図っている。困難事例など、電話で報告や相談している。地域包括センターとの連携も良好である。役場からの依頼を受けて、認知症カフェ1号店として開催し、今後も定期的な開催を予定している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的な身体拘束の禁止はスタッフ全員が理解しており、もし実施する場合はご家族様に同意を得るようにしています。	毎月の会議で参考資料を基に勉強会を開催している。玄関の施錠は安全を優先して行っているが、スピーチロックに配慮したり、束縛感のない環境造りに努めている。	身体拘束マニュアルを作成し、身体拘束をしないケアの理解と鍵を掛けない暮らしの大切さについて勉強会で活かせるような取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人間なので時としてカッとなったりはするが、「笑顔と思いやりの心」を忘れず接するようにスタッフ全員でお互いに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が持てておらず、今後スタッフ会議などで学ぶ時間を作ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様に十分に説明を行い、質問も随時受け付けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時にこちらから声をかけ、ご利用者様の日常の生活の様子をお話したりする際や運営推進会議に出席時に意見をお聞きするようにしています。	入居者からは日常のケアの中で把握し気付きノートや医療ノートに記録し、その都度検討をする。家族からは面会や行事などで意見や提案を聞き、グループホーム会議等で話し合い運営に反映させている。	入居者や家族から、不特定多数の意見や要望を聞き今後の運営に反映させていくために、意見箱の設置や事業所としてのアンケート調査などの実施をしていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回開催するスタッフ会議で皆の意見を吸い上げ、反映させています。	職員会議や日々の業務の中で意見交換を行っている。出された要望などは、各部署会議やコンサルタント会議などで管理者から報告があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康状態等に気を使って下さっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今後、研修を受ける機会を作っていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣の介護老人保健施設の職員がアルバイトで勤務していることもあり、情報交換もわずかではあるができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初はご本人様がホームになじめ安いうように声掛けをするなど、気遣いは来ています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なるべくご本人がより早くホームになじめるようにご家族さまからご本人様の過去の生活歴・趣味等を聞きだし、よりよい関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と十分にお話をさせて頂きご本人にとってよりよいサービスが受けられるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じホームで生活するものとしてご本人様の意思を尊重し、できることはご自分でやっていただきできないところを手伝わせていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とも十分にコミュニケーションをとり、協力を得ながらご本人を支援していく関係である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ながらのご友人からのお手紙や訪問は快く受け入れ、手紙はお返事を代筆して返送するなどしている。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所を把握し、ケアに活かせる様に努めている。友人の訪問や家族と馴染みの場所に出向いて行く事もある。手紙を送る支援の継続によりこれまでの繋がりが途絶えないようにしている。畑仕事や編み物など趣味や仕事を振り返り、大切にしてきた関係を継続できる様に支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様それぞれの関係を把握し、よりよい関係を継続していくように支援させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームを退所後もご本人に会いに行く機会を作ったり、ご様子を聞いたりすることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべくご本人の意思を尊重し、個々の思いを把握するように努めています。	日々の関わりの中や、入浴時、くつろぐ時間に話を聞き取り取るようにしている。聞き取った内容は、ケース記録や、気づきノートに記録し、職員間で共有してケアに繋げている。聞き取りが難しい場合は、情報シートやふっとした表情から読み取るようにし、本人の思いに沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から聞きとるようにし、聞けない場合は情報シートなどで把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご利用者さまの様子を観察し、気づいた点はスタッフ同士で話し合ったり、ノートに記述したりして現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議でご利用者の状態を話し合い、ご本人様にとってよりよいサービスとなるように作成し、できあがったものはご家族に説明させていただきます。	家族の意向確認は面会時や電話で確認をし、本人からは日々のケアの中から聞き取り、介護計画を作成している。6か月ごとにプランの見直しをし、モニタリングは介護チェック表を活用している。担当制にしているため、想いや希望を取り入れ現状に沿ったプランの作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様それぞれにその日気づいた点や変わった様子などあれば各スタッフが個別のケース記録、気づきノート、介護日誌に記入しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なるべくそのご利用者さまにあったサービスができるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアさんに毎月手作りおやつを手伝いに来ていただいたり、前庭の畑を手入れしていただき野菜の収穫など支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望があれば優先し、かかりつけ医を受診しています。	入所時に協力医への説明を行っている。家族や本人の希望があればかかりつけ医受診も可能である。内科医の往診が隔週あり、協力医からの看護師訪問もある。歯科は、事業所が連れて行き受診をしている。受診後は必ず家族へ報告を行い、受診に関わる情報や薬の取り扱いについては、職員間で確認しながらケアに繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1回ペースで訪問している看護師に気づいた点、怪我の処置等相談し、必要があれば受診等しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時に情報の交換をさせていただきよりよい関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々のご利用者様の状態を必要があれば主治医に相談し、主治医、もしくは管理者より今後の話をご家族様にさせていただき支援しています。	看取りは行っていないが、重度化や終末期、看取りについては入居時に意向や希望を確認している。状況が変化した場合はその都度本人や家族に希望を再確認し、医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当などの訓練は今後実施予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣の老人保健施設と協力した訓練、ホーム単独での訓練を実施しています。	消防署の立ち会いの下に、隣接施設の老人保健施設と合同で訓練を実施している。ホーム単独訓練では昼間の想定で訓練を実施している。地域との協力関係や備蓄については模索中である。	災害時に事業所として地域に協力してもらいたいこと、事業所として地域にできることなどを運営推進会議等で具体的に話し合う機会を設け、相互に協力体制を整えていくことを期待したい。備蓄品の確保や保管場所、リストなど関連施設との連携を図り、備えていくことを望みたい。また、夜間帯想定避難訓練を検討し実施していくことを願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意をもって接しています。	普段の関わりの中で、言葉掛けや対応など入居者の思いやプライバシーに配慮し、本人の気持ちになって支援ができるように心がけている。また、入居者の個性や人格、相性などを考慮し、それぞれのプライバシーや立場を尊重したケアに心がけ、より良く過ごせるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくスタッフ側で決めてしまわず、ご本人の意思を尊重して選択できるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくご本人様のペースに合わせて生活していただき、支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々のご利用者様の身だしなみに気をつけ、その方に合った、服装等できるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時にご利用者さまと一緒にとり、楽しく会話しながらご自分で食べられない方は介助する等、支援しています。	季節や行事などに配慮し、栄養バランスのとれた食事が、隣接の老人保健施設の厨房で調理され毎食運ばれてくる。好き嫌いや献立の変更が必要になった場合でも対応は可能となっている。おやつレクや外食など食べる楽しみを継続させている。できる方は、片付けや拭きあげなどの手伝いもしている。職員も食卓を囲み入居者と一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者様の食事摂取、水分摂取量を毎食時チェックするようにし、摂取不良者様には補助となるものを摂取するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい歯磨きをご自分でできる方にはやっけていただき、できないところは介助して支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のご利用者のより適切な排泄方法で支援させていただいています。	トイレでの排泄を目指しており、チェック表を用いて、プライバシーに配慮したさりげない言葉かけや誘導を行っている。パットの使用記録を付け、使用枚数の確認をして、清潔保持が出来るようにケアをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量等気をつけていますが、薬に頼る部分が大きいです。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は午前・午後、曜日を決めさせていただいていますが、もし希望があれば浴うようになっています。	基本は週2回、午前、午後の時間帯で入浴しているが、希望があれば毎日でも対応は可能である。浴室が2か所あり、機械浴が設置されているので身体状況に合わせて、安心して入浴できるようにしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態をみて昼寝をしていただく等しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てを把握しているわけではないが、おおまかに把握し、変化があれば主治医に相談したりしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力、得意なことを伸ばすことができるように、役割をもってもらうように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会は多くするようにしているが、あまり本人の希望に沿った外出はできていません。	施設の周りを散歩したり、ベランダや広い畑に行き、日常的な外出を楽しんでいる。入居者の欲しい物を買いに、2週間に1度は出かけている。また、計画を立て、季節の花を見に出向いたり、水族館へ行くなど、外出する機会を作っている。家族と外出される方もいる。法人の特別養護老人ホームの祭りや行事に参加したり、隣接施設の老人保健施設のデイサービスに出かけ音楽療法や歌謡ショーを楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理できているご利用者様はご本人で所持しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なるべく支援させていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りを飾ったり、なるべく清潔な空間を保つようにしています。	陽ざしが差し込むリビングは広く落ち着いた雰囲気があり、ゆったりとした時間を楽しむ事が出来る空間となっている。ベランダと、その奥には広い畑があり、居室やリビングからも自由に行き来が出来る作りとなっている。定期的な空気交換時間を決め実施、掃除も行き届いており清潔感がある。片隅に畳コーナーが設置されている。	広い居間の中心に、2か所に食卓テーブルが設置され、入居者は多くの時間その場で過ごしている。空間にかなりのゆとりがあるので、庭を眺められる位置にソファコーナーなどを設置し、身体の位置を変えゆったりと寛いだり、気分転換を図れるような環境の工夫を望みたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の関係や行動を尊重し、個々のご利用者様の意に沿うよう席替えをするなどしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が以前使用していた使い慣れたものを持ち込んでいただき、安心して過ごしていただけるよう支援しています。	全ての居室はテラスに面しており、開放感がある。入口のドアは斜めに設計されプライバシーに配慮されている。居室には洗面台とクローゼットが設置されている。タンスやテレビなど使い慣れた物を持ち込んで安心できるスペースや環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置、ご自分の居室がわかりやすいように表示を大きくするなど工夫しています。		